

論文審査の要旨および担当者

報告番号	甲 第 号	氏 名	遠藤 正之
論文審査担当者 :	主査	慶應義塾大学大学院教授	博士(工学) 高野 研一
	副査	慶應義塾大学大学院教授	博士(工学) 春山真一郎
	副査	慶應義塾大学大学院准教授	博士(工学) 白坂 成功
	副査	法政大学 経営大学院	博士(都市創造) 石島 隆
(論文審査の要旨)			
<p>本論文は、「金融情報システムにおける経営戦略としてのリスクマネジメントの体系化及びその実践」と題し、全体で6章から構成されている。論文および発表は、日本語で実施した。同時に英語でのサマリ発表を行った。</p> <p>著者は、三菱銀行のIT部門での長年の経験をもとに金融情報システムのリスクマネジメント戦略およびその具体的な実践のプロセスの提案およびその戦略指針となる「CORE-OQ」なる概念を提唱した。これは、経済情勢の様々な変化への対応と安定的な稼働の双方が要請される基幹インフラとしての金融情報システムのリスクマネジメントを実行するに当たり、経営層が取り組むべき課題の基本的アクションプランを策定するにあたっての6つの重要な観点を示したものである。下記に示すこの観点は、これまでのリスクマネジメントの高度化への取り組みとして広く認識してきた様々な先行研究の調査による課題の明確化や我が国および諸外国の取り組みの事例などをベースに膨大な項目群を体系化することによって得られたものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経営トップのコミットメントと支援 (Commitment) 2) 適切な組織体制整備によるICTガバナンス強化(「組織体制とICTガバナンス」)(Organization) 3) 経営ITリスクの適切な評価と対策の構築(「ITリスクマネジメント」)(IT Risk Management) 4) 経営戦略に合致した業務拡張性及びシステムの一貫性の確保による二重投資の排除(「拡張性一貫性確保」)(Extensibility) 5) 外部関係者の要請とICTのケイパビリティの間をつなぐ要件定義最適化(非機能要件を含む)(「要件定義最適化」)(Optimization) 6) 品質重視の仕組構築(Quality) <p>この体系の有効性と妥当性について、情報システム開発に関与する金融機関従業員を対象とした問題意識調査、過去の金融情報障害事例、企業の取組みの調査による事例検証、クラウド技術、情報セキュリティ最新動向、地銀共同化等の経営環境変化への適用性を検討した上でその検証を行ったものである。</p> <p>金融情報システムは顧客の財産情報を扱いつつ、広範囲の異質な決済ネットワークにつながるなど、複雑かつ大規模なシステムであるとともに、高度な信頼性・安定性を要求されるシステムであり、リスクマネジメントの難易度が格段に高い。この分野での貢献は、実用的観点から極めて実用性が高く、金融情報システムに限らず、情報システム全般に渡って、今後のリスクマネジメントの実践的取り組みの方向性を示すものである。</p> <p>本研究は、以上述べた通り、長年の豊富な金融情報システム構築および運用の現場で培ってきた経験と実務に裏打ちされたものであり、金融機関のリスクマネジメントの体系化を行っている。本論文のアプローチは、金融情報システムの障害予防のみならず、金融情報システムをビジネスモデルに組み込むなど、さらなる活用と企業の優位性を主張するための発展が期待できる分野であり、高度情報化のセキュリティ強化にも重要な示唆を与える。以上により、審査では、全員一致で学位審査の合格を確認した。したがって、本論文の著者は博士(システムデザイン・メネジメント学)の学位を受ける資格があるもの認める。</p>			